

日時: 2021 年 4 月 16 日(金) 14:45-16:30 場所: 横浜市青少年育成センター 第 1 研修室

◆ 主催: 防災塾・だるま 総括運営: 鷲山龍太郎 司会: 山田美智子 記録: 田中 晃

◆ 参加者 25 名: 会場参加 20 名 (会員 19 名 + 一般 1 名)、Zoom 参加 5 名 (会員 4 名 + 一般 1 名)

演題: 「日本列島の誕生と自然災害の理解」

講師: 鷲山龍太郎氏 (防災塾・だるま副塾長 神奈川地学会幹事 防災士)



■ 山田副塾長挨拶

講師の鷲山副塾長は横浜市の教員時代から日本の生い立ちについての地学教育を実践してきました。校長時代には地域、保護者、学校が連携した防災活動を推進。勤務した太尾小学校区は 2020 年度「防災まちづくり大賞 総務大臣賞」を受賞。今回は楽しい仕掛けを入れた講演をしていただくので、期待しています。

<講演要旨>

◆ 日本は地震発生の巣窟

・ 関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災での多くの犠牲、熊本でも大地震が起こっており、これまで災害リスクを認識する教育がされてこなかったことが甚大な被害に繋がっている。日本には地震や火山が多く、いたるところに断層がある。

・ フィリピン海プレート、太平洋プレートの沈み込みが日本列島を生み出し、災害の要因でもある。

◆ 君が代さざれ石の由来

・ 5 億年前に今の生物の原型ができあがるころからプレートの大陸辺縁への沈み込みと付加が続いてきた。1 億年前の恐竜がいた中生代白亜紀に日本列島の肉となる四万十帯が付加されている。

・ 君が代のさざれ石の由来は、2 億 3 千万年前古生代のサンゴ礁が海山として衝突した伊吹山の石灰岩で、長い年代の積み上げを物語っている。

◆ 120 度弓を引いた格好で出来上がった日本列島

・ アジア大陸の東部にあった日本の原型は、2500 万年前からフィリピン海プレートが拡大することの「帳尻合わせ」で大陸から引きはがされフィリピン海プレートとひし形で相似形の日本海ができた。この大変動で日本列島は 120 度折れ曲がっており、その裂け目がフォッサマグナである。

・ 列島中央を二分するフォッサマグナは地球の裂け目で、西は糸魚川～静岡構造線、東は諸説あるが、関東地方はフォッサマグナとの見方もある。

◆ 日本列島各地の出来上がり

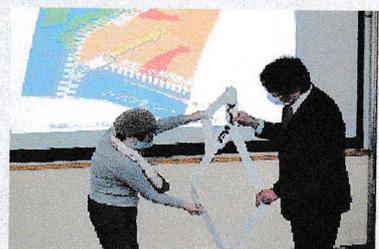
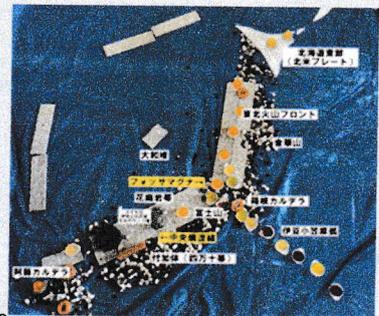
・ 日本列島を東西に縦断する中央構造線は長大な断層帯で、日本列島の背骨。この地球の裂け目に丹沢や伊豆を先頭とした伊豆小笠原弧が現在も衝突し続けている。(→元禄&大正関東地震・南海トラフ巨大地震へ)

・ 九州は中央構造線の延長で南北に裂ける動きをしている。(→熊本地震へ)

・ 中国四国では中央構造線外帯が 300 万年で 18 km 動いたことに引きずられて隆起域と沈降域が交互に形成され、瀬戸内海と西日本の断層群を生んだ。(→天正地震、濃尾地震、阪神淡路大震災等西日本内陸地震へ)

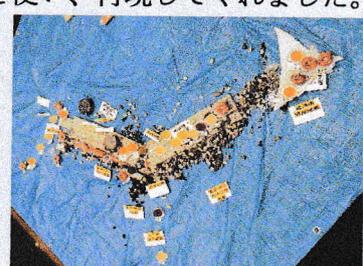
・ 東北地方は日本海溝が西に 30 km 移動した力で沈没から隆起した。

・ 北海道は北米プレートが日高山地で衝突している。(→北海道胆振地震へ)



<模型による日本列島の生い立ち>

日本列島の生い立ちを手作りの模型と海から浮上した小物による堆積物を使い、再現してくれました。



<総括> 地質学は難しい学問と思っていましたが、鷲山講師は日本列島の形成を花崗岩板と日用品を利用した堆積物で表現、説明のストーリーもおもしろく、人柄が表れ受講者も引きずり込まれていました。

● 次回 (第 181 回) 案内 (会場参加 + ZOOM 参加)

・ 日時: 2021 年 5 月 28 日(金) 13 時 30 分 ~ 14 時 30 分 ・ 会場: 横浜市青少年育成センター 第 1 研修室

● 話題: 「神奈川大地の誕生と災害の理解」 ・ 講師: 鷲山龍太郎氏 (防災塾だるま副塾長)